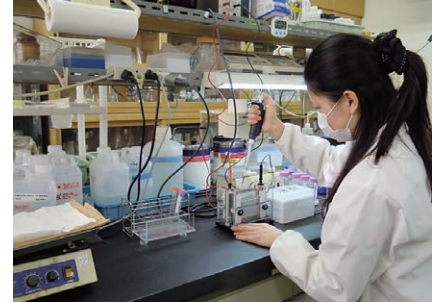


人間と文明・環境の関係を学際的・総合的に理解するために、生命・脳科学、心理学、スポーツ科学、言語学、哲学・倫理学、美学・芸術学などの自然科学・人文科学を含む多角的視点から、人間そのものの本質「人間とは何か」という課題を総合的に追究します。

生命科学研究領域 *Life Sciences*

この領域は生命科学と脳科学の2つの分野からなります。生命科学分野では、動物の細胞、組織、個体を用いて、物質代謝・細胞機能にかかわる分子間相互作用、シグナル伝達、オルガネラ動態、遺伝子制御およびそれらの環境因子との関係を解析します。脳科学分野では、動物の本能行動や記憶・学習に関与する脳内の神経回路網を探索し、神経連絡にかかわっている分子の同定とその作用機構や、脳の成長や学習に伴う神経回路網とその機能の変化を追究しています。これらの研究教育をとおして、生命科学における研究能力や応用能力を高めます。



タンパク質の電気泳動



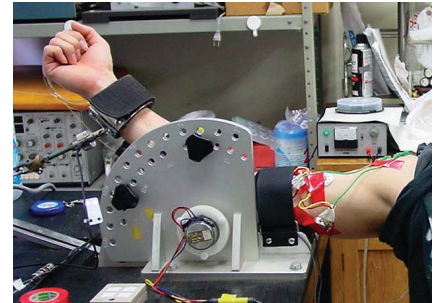
脳波解析の実習

人間行動研究領域 *Studies of Human Behavior*

人間行動を的確に理解するためには、その発生や変容のメカニズムにおける多様な要因間の相互の影響過程を科学的に分析する能力が不可欠です。マイクロレベルの要因としての生理的・認知的諸要因、個人の内在的な要因としてのパーソナリティ、個人間の要因としての対人関係、マクロレベルの要因としての集団や社会・文化は、個別にも、関連しあいながらも、個人行動のダイナミズムを生み出しています。この領域では、多様な専門領域の教員が個別的な指導とともに、相互に連携しあいながら、人間行動の総合的な理解をめざして教育・研究にあたります。

身体運動科学研究領域 *Human Movement Sciences*

人間はなぜ身体運動を必要とし、身体運動は人間に何をもたらすのか？スポーツはもとより日常生活、労働、医療、芸術など、あらゆる場面で身体運動は欠かすことができません。高齢化、運動能力の低下、肥満、ストレスなど現代社会が抱える諸問題の多くが身体運動と密接にかかわっています。この領域では、身体運動がもつ健康的、競技的、教育的、娯楽的価値に注目し、ヒトの動きの解析から文化的考察まで、幅広い視野からアプローチすることで、人間が「よりよく生きる」ための身体運動のあり方や「人間とは何か」という問いに、学際的に答えることをめざします。



筋疲労実験風景



言語研究領域 *Language Studies*

人間は、最も崇高で根源的な能力ともいべき言語能力をもっています。この領域では、音声学音韻論セミナー・認知意味論・対照言語学・比較語用論・現代英語の文法と語法・言語構造論・コンピュータ言語学・応用言語学インターフェイスの8つの授業科目を開設しています。日本語・中国語・英語・ドイツ語・フランス語などを対象として、人の言語能力や言語現象・言語活動について、歴史的、共時的、対照分析、語彙の意味や成り立ち、音声と意味の情報伝達のインターフェイス分析などの観点から、言語の問題を多角的・総合的に分析できる知識と力を養います。

人間存在研究領域 *Humanities and Science of Art*

哲学、倫理学、美学・芸術学、美術史学、メディア論、宗教学などの専任教員が、人間存在にまつわるこれら根源的な問いを真摯に受けとめ、独創的かつ学際的な方法で研究を進めています。現在、医療・情報技術、自然環境、政治経済、芸術・文化行政などの現場では、さまざまな「軋み」と「歪み」が露呈しつつあります。人間社会のこうした困難な問題群を踏まえ、人間存在のあるべき姿—理性と感性の調和—を模索し、それを呈示することが、この領域のめざすところ。この領域は、知的創造人として社会を革新し、未来を積極的にデザインしていく、魅力にみちた「知の営み」を推進します。



ラファエロ「アテナイの学堂」